

第4回東静岡駅南口県有地への「文化力の拠点」基本計画策定専門家会議

平成28年6月10日

日時	平成28年6月10日（金） 午後2時から 午後4時まで
場所	静岡県庁本館 特別会議室
出席者職・氏名	◎伊藤 滋 東京大学名誉教授、早稲田大学特任教授 内藤 廣 建築家・東京大学名誉教授 寒竹伸一 静岡文化芸術大学大学院教授 石原和幸 (株)石原和幸デザイン研究所代表取締役 東 恵子 東海大学海洋学部教授 伊東幸宏 ふじのくに地域・大学コンソーシアム理事長、 静岡大学学長 荒木信幸 ふじのくに地域・大学コンソーシアム企画運営委員会副 委員長、静岡理工科大学名誉学長 酒井公夫 (公財)静岡県観光コンベンション協会理事長 静岡鉄道(株)代表取締役会長 藤田圭亮 (株)なすび代表取締役社長  知事他
議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「文化力の拠点」導入機能・規模イメージ案</li> <li>・ 「文化力の拠点」施設構成イメージ</li> <li>・ 「文化力の拠点」の整備・運営のあり方 ほか</li> </ul>
配付資料	資料1：第3回専門家会議（平成28年3月23日開催）における委員からの意見への対応 資料2：「文化力の拠点」導入機能、規模イメージ案（総括表） 「文化力の拠点」導入機能、規模イメージ案（たたき台） 資料3：「文化力の拠点」の施設構成イメージ ～建物ボリューム等検討資料（たたき台）～ 資料4-1：「文化力の拠点」の整備・運営のあり方 資料4-2：事業手法（参考） 資料5：「文化力の拠点」活用案 国際学生寮（インターナショナルドミトリー） 資料6：東静岡駅 ボリュームスタディ 資料7：東静岡地区景観ガイドライン（案）のイメージ

【政策企画部長】 ただ今から、第4回東静岡駅南口県有地への「文化力の拠点」基本計画策定専門家会議を開催したいと思います。委員の皆様方には、大変お忙しい中御出席賜りまして、誠にありがとうございます。開催に当たりまして、川勝知事より御挨拶申し上げます。

【川勝知事】 本日は、誠ににお暑い中、委員の方々、伊藤滋委員長先生をはじめ御出席賜りまして、誠にありがとうございます。

この委員会は、2年前に高階秀爾先生に策定していただきました「東静岡周辺地区の整

備に関する有識者会議」の基本構想に基づきまして、その基本構想にのっとった形での「文化力の拠点」づくり、これを具体化するという段階でございます。

さて、去る3月23日に第3回会議を開催いたしました。そこで、「文化力の拠点」のメンバーを提示いたしまして、導入機能・規模について議論を深めていただくとともに、荒木先生から大学コンソーシアムの拠点機能や留学生の短期滞在施設としての活用イメージ、また石原先生からは外部空間の緑化の考え方を御提案いただきまして、議論が深まったところでございます。

本日の第4回会議におきましては、前回の会議で委員の先生方からいただきました御意見も踏まえ、精度を高めた導入機能・規模、また施設構成イメージ案について事務局から提示し御議論いただく中で、この会議における方向性を示していただきたいと考えております。

前回に引き続き、荒木先生から、国際学生寮について、より具体的な御提案をいただくということになっております。また、内藤先生、寒竹先生からは、「文化力の拠点」の建物イメージについて、皆様の前にございます模型を活用し、建物のボリューム感や周辺との調和、富士山への眺望配慮などの観点から幾つかのパターンを御提案賜りまして議論を深めていただくことを期待いたしております。

委員の先生方には、富士山をはじめ、静岡県を持っております食・お茶・花、食の都、茶の都、花の都といっても差し支えないくらい豊かな、世界水準の魅力を生み出してきた、その高い文化力を国内外に発信いたしまして、美しく風格のある富士山のような「文化力の拠点」が形成できますように、忌憚のない積極的な御提言を賜りますようお願い申し上げます、挨拶いたします。

伊藤先生、よろしく願いいたします。

【政策企画部長】　　続きまして、本専門家会議の伊藤会長から御挨拶を賜ります。よろしく申し上げます。

【伊藤会長】　　どうもお暑いところお集まり、ありがとうございました。本日4回目ですが、前回、私、お伺いしていたところ、相当きちっとしたお話をいただきまして、それをもとにして寒竹先生、内藤先生、御苦勞でございました。ある程度イメージを私たちに提供できる資料をつくっていただきました。本日は、相当うまい形で収れんしていけるのではないかと考えております。

しかし、「文化力の拠点」というのは大変難しい言葉でして、これに静岡県をくっつけて、

静岡こそ日本の「文化力の拠点」であるということ、ここに空間表示するというのは、まだまだ委員の皆様方のお知恵を借りなければいけないと思っております。そういう点で、4回目も、前回に変わらず熱心な御意見をいただければありがたいと思っております。よろしく申し上げます。

【政策企画部長】      ありがとうございました。

すみません、これからは着座にて説明させていただきたいと思えます。失礼いたします。

改めてでございますけれども、本日の出席者でございます。お手元に配付しております委員名簿と座席表のとおりでございます。本日は石塚委員が、先ほど知事からも話がありましたように御欠席されていますことを御報告申し上げます。また、酒井委員につきましては3時40分までの会議ということで御参加を賜りました。どうもありがとうございます。なお、県側の出席者につきましても座席表のとおりでございます。

それでは、お手元の次第に基づき、議事に入らせていただきます。ここからの議事進行は伊藤会長にお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

【伊藤会長】      それでは、これから事務局から今日の手元の資料の説明をお願いしますが、通して説明していただけますか。そして、その後、先生方の御意見をということにしたいと思えますので、お願いします。

【政策企画部長】      わかりました。事務局より説明申し上げます。お手元の資料1から4まで、それでは続けて御説明を申し上げたいというように思っております。

まず、お手元の資料、右肩にございますけれども、資料1を御覧ください。本年3月23日に開催いたしました第3回専門家会議の委員の皆様からいただきました御意見と、それに対する対応でございます。委員の皆様からは貴重な御意見を、大きく我々のほうで4つのカテゴリーにして取りまとめたものでございます。

初めに、文化力の拠点への導入機能・規模について申し上げます。左側に番号がつけておりますので、その番号で申し上げます。

意見1、2の御指摘でありましたように、この拠点が地域住民と学生、また全国の大学の留学生が集い交流する場となることや、大学コンソーシアムの活動を中心に若者が集まり、加えて住民参加による景観づくりや花と緑にあふれた地域づくりなどの人の交流の場としての機能を創出していきたいという御指摘がございました。

意見3でございます。まさに文化力の拠点として、日本平周辺に集積する学術、文化・芸術関係機関に関連される多彩な研究者が集い、交流し、学を究める拠点、いわばふじの

くに研究拠点としての機能を導入するように、我々として検討していきます。

意見4でございますように、施設としての充実した機能もさることながら、拠点とその周辺のイメージを合わせ、静岡が誇ります食・茶・花などを連想させるよう、機能間の組み合わせや周辺施設とのつながりを考慮して、人の流れを生む機能の導入に努めてまいります。

意見5で御指摘の、施設ありきでなく、そこで人々がどのような活動をするのかに対しまして、「文化力の拠点」でのユーザーが求める施設内の機能の充実、これは当然といたしまして、周辺施設へ訪れる方々との人との行き来が図れるような、そうした工夫も図ってまいります。

意見6でございますけれども、具体的に図書館を例にされまして、勉強だけでなく食事もできるようなマルチな感じのスペースにすべきとの御意見を踏まえまして、壁での仕切り、そういったものを減らすなど、単一機能の閉鎖的な空間とはせずに、開放的な連続性のある空間とするように留意してまいりたいと思います。

意見7につきましては、意見1、2、そして4を含んだような形の意見として捉えさせていただきますまして、食を通じまして、若者、女性が交流を深めたり憩うことができたりするような施設構成のパターンを、今後議論していただきたいというように思っております。

意見8及び意見9の御意見でございますけれども、拠点の施設イメージについての御指摘でございました。後ほど資料3によって施設構成イメージで改めてお話し申し上げます。また、建物イメージ案としましては、寒竹委員、内藤委員から御提案、御意見をいただきまして、御議論いただきたいというように考えてございます。機能・規模のうち、規模につきましては、また後ほど説明いたしますけれども、これまでの機能についての意見、少し多かったものですから大きくまとめますと、文化、学術の拠点としてのそういった施設を基本といたしまして、食、花というテーマ性を持って学術研究者や各国からの学生が集い、また若者や女性が訪れたいような、そういった雰囲気を持たせて、周辺施設との移動がスムーズにできるか、そういったことの整備をするということの御意見として承っております。

次に、大学コンソーシアムの拠点機能・国際学生寮についてでございます。拠点の重要な機能として意見10及び11で御指摘がございました、留学生が100人以上の規模で周辺に実際に居住していることや、様々な大学の留学生がここに住む、そのこと自体が地

域の活性化につながるというような意見を踏まえまして、先ほど申しあげました留学生と地域住民との交流、それに加えて、留学生の静岡に対する理解を深めていただいて、帰国したときに、ふじのくにの思想を広めていただくと、そういったことを視野に留学生と日本の学生の交流拡大を初めといたしまして、この地で様々な機会を提供できるよう、交流の場として創出するように努めてまいりたいというように思っています。

意見12、この記載のとおり、国際学生寮の規模でございますけれども、200人ぐらいにすべきとの御意見をいただきました。本日の会議では、国際学生寮について想定する受け入れ人数の拡大につきまして、荒木委員から御提案をいただくこととしておりますのでどうぞよろしく願いいたしたいと思っております。

次に、文化力の拠点の整備についてでございます。意見13でございますけれども、民間投資をにらんだ様々な整備手法があると御指摘がございました。これにつきましては、導入機能の検討とともに、実際に投資をする側の立場の民間事業者の意見も聞きながら事業スキームを検討してまいりたいと考えてございます。後ほど整備、運営について、改めて御説明を申し上げます。

次に、景観・まちづくりの観点であります。意見14として載せてございますけれども、富士山の眺望についての御意見につきましては、後ほど寒竹委員の模型で御確認いただき、御議論いただきたいというように思っております。

意見15、16で、拠点そのものだけではなく、駅前の広場の空間に景観コアが必要でありますということや、文化的な景観を生み出さなければならないというような意見につきましては、都市景観検討技術会議において検討していく形で対応してまいりたいと考えております。それに関しまして、後ほど交通基盤部長から検討状況の報告をいたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

資料1につきましては以上でございます。

引き続きまして、資料2を説明させていただきます。資料2「文化力の拠点」への導入機能・規模イメージ案でございます。

資料2は、A4の一枚の縦型とカラーのA3の2枚、合計3枚になってございます。順序は逆に申しわけございませんけれども、まずはA3版のカラーの縦型の資料を御覧になっていただきたいと思っております。

この資料は、毎回専門家会議で御議論いただきまして、徐々に進化しつつ変更してまいりましたけれども、さらに前回の会議での御意見を踏まえまして、導入機能の追加や規模

の拡大の修正を加えたものでございます。

特徴的なところを申し上げたいと思います。申し上げたい点としまして、1ページ目の下でございます、項目で「学ぶ・人づくり」の上段の、「次代の静岡を担う学生をはじめとした若者が集い、郷土愛を持って、地域に根ざした活動や、静岡ならではの学びができる機能」についてでございます。前回の会議での御意見を踏まえまして、新たに県内の学術、文化・芸術関係機関の研究者などで共同研究スペースをつくるということで、共同研究の拠点というものをここで位置付けました。

資料を1枚めくっていただきます。「出会い・交わる」のうち、「留学生支援により海外との多彩な出会い・交流を生み出すとともに、産業面からも海外とのつながりを深める機能」についてでございます。エッセンスとしまして、国際学生寮というのがございます。いろいろな調整によりまして、今、規模感を6,000㎡程度としてございます。後ほど、荒木委員からの御説明の中でもこれに触れるというように思っております。

それから、建物全体の規模感としまして、あくまでもたたき台の参考としていただきたいと思いますが、その他に書いてございます共用機能、それから駐車機能、こちらの機能は2万㎡程度と想定されますけれども、全体で合計4万4,000㎡程度と考えてございます。このうち、立体駐車場を除くと2万4,000㎡程度、そこから民間導入の機能を除いた公共機能分としては、大体1万8,000㎡程度で想定してございます。これはあくまでも想定でございまして、

ページを戻っていただきまして、先ほど飛ばしましたA4の1枚ペーパーは、2枚にまたがっていた長い資料を簡単に1枚として総括したものでございますので、御参考までに見ていただければというように思っております。

それでは、そのまま引き続き資料3を説明させていただきます。お手元の資料3を御覧いただきたいと思っております。

これは、前回の会議でいただいた御意見を踏まえまして、施設構成のイメージのパターン化したものをお示ししたものでございます。本資料は建物のボリューム、機能などをパターン化して示したものでございまして、後ほど寒竹委員、内藤委員から御説明、御意見をいただいた上で、施設整備に当たっての考え方、配慮すべき点について、今後取りまとめていきたいというように思っております。

前回は、グランシップが近くでございますので、それと同程度の高さを想定して、大体ワンフロアを2,000㎡程度の高層階としたたたき台を皆様方にお示ししましたが、現在、

ワンフロアが5,000㎡くらいがスタンダードになっているという御意見もございました、ここではパターンを2つ用意しました。1つは、パターン1といたしまして、グランシップの高さと合わせる、高さ60メートル程度です。これはグランシップとスカイラインをあわせるという、そのパターンが1つと、それからもう1つのパターンとしましては、ワンフロア当たりの面積を5,000㎡として空間のイメージを持つということで、2つのパターンをベースといたしまして、それぞれパターン1のA、B、C、パターン2のA、B、Cといった、いろいろなレイアウトを変えるなどして、それぞれ3つの案、合計6つのパターンをとりあえずのイメージとして記載してございます。パターンごとの詳細は、後ほど皆様方の前で模型を使って御説明をいただく予定でありますので、私から各パターンに共通する施設整備の配慮事項について御説明いたします。

まず、計画地内における施設配置につきましては、北側に古代東海道を活かした広場を配置、それから建物は南側に配置すると、そういうイメージで考えてございます。

また、建物の3階部分には、歩行者連絡橋もあります。ペDESTリアンデッキですけれども、それを設置することによりまして、東静岡駅及び駅の北側とその一体性を確保したいと考えております。駅北口のスポーツの殿堂の利用客と相互利用を促進するという意味合いでございます。あわせて、南側のグランドレベルや古代東海道の遺構、グランシップなどの関連性を確保することによりまして、文化・芸術施設等の利用者と一体的な利用を促進してまいりたいと思っております。

このほか、駐車場の出入口における車両の渋滞が懸念される場所もございまして、計画地北側の道路です。東静岡駅南環状線ですけれども、そこから出入りする車両動線の確保につきましても考慮したいというように考えてございます。

また、第1回会議におきまして、南側に暗い壁が、壁が並ぶと暗くなるというような御指摘がございまして、南側には、案でございまして、カフェとか食堂、物販販売を、そういったものが配置できればと考えております。街路沿いにオープンデッキを設けて、そのようなことで交流と賑わいを創出するというのをイメージしてございます。

さらに、施設内の緑化ですけれども、緑化に努める、そのほかに、施設からの富士山の眺望場所を確保するというので、景観に配慮してまいりたいと思っております。これも、後ほど模型で、ボリューム感をはじめとする御議論とともに御確認願いながら、また御意見も頂戴したいというように思っております。

「文化力の拠点」の施設構成イメージにつきましては、以上でございます。

長くなって申しわけございません。そのまま引き続き、「文化力の拠点」の整備・運営のあり方ということで、資料4を御覧いただきたいと思います。まずは、片側に資料4-1と書いてございますけれども、「文化力の拠点」整備・運営のあり方でございます。「文化力の拠点」への導入機能というのは、官で整備、運営するものと、それから宿泊機能やレストランなど、民間の提案を求める機能、この両者がございます。本事業計画における整備運営の手法を検討するにあたっては、このような立地条件の良い土地の特性も活かしながら、民間の資金、それから能力を活用した事業スキームを構築したいというように考えてございます。

つきましては、まず民間事業者の事業参画を促すこと。一方で、県の財政負担の影響などを把握、検討しながら、最善の事業スキームの構築に取り組んでまいりたいというように思っております。

具体的な整備手法のイメージでございますけれども、これは資料にございますけれども、資料4-1でございますが、敷地の利用形態の検討として、民間のもの、それから公的なものが一緒になって建つ合築のものと、分けて建つ分棟という2つの考え方がございまして、それぞれメリットとデメリットを示してございます。詳細は申し上げませんが、後ほど皆さんに御覧になっていただきたいと思います。

次のページでございますけれども、これは一般的な民活の事業スキームの具体的な手法として例を挙げたものでございまして、1つは民間事業者が建物を一体的に整備する。それで県と民間との建物持ち分比率によって土地と建物の一部を交換するというような方向で取得することで、県の財政負担を圧縮できる等価交換方式が1つ示されております。

それから、建設、管理運営まで一括して民間に発注してしまう。その事業の期間内県も分割払いをするということで、これは県の財政負担の軽減といえますか平準化できる意味合いとしまして、PFI方式と組み合わせた定期借地法の手法をこちらに例としてお示ししてございます。

この2つの方式は、ある意味代表的な手法でございまして、実際には今後民間事業者の声を丁寧に聞きながら進めてまいります。ページをめくっていただきまして、資料4-2に様々な事例がございまして、これも全てではございませんけれども、様々な事業スキームを組み合わせることがございまして、そういった組み合わせの中で、民間事業者の参画が見込め、かつ県の財政負担の軽減ができ管理運営上有効なものはどれかと。こういったものも事業スキームの検討として進めてまいりたいというように思っております。



資料4についての説明は以上でございまして、資料1から4まで、立て続けで申しわけ  
ございませんでしたけれども、説明を終わります。

以上でございます。

【伊藤会長】 はい、ありがとうございました。

それでは、「文化力の拠点」の活用案ということで、荒木先生からお願いしたいと思いま  
す。

【荒木委員】 荒木でございます。インターナショナルドミトリーと称して提案をさせ  
ていただいておりますけれども、今の議事メモでおわかりいただけますように、いろい  
ろな御意見をいただきました。特に伊藤会長から、地域の活性化のために収容人員が10  
0名というのは、少ないのではないかと。私たちは日本人と混住を考えておりますので、  
100名といっても五、六十名の日本人をプラスしてということでございました。伊東先  
生からは、その倍の200人ぐらいをといた話がありましたので、検討させていただきました。

さらに、川勝知事からは、外国での生活の様子を御披露いただきまして、外国における  
インターナショナルなまちづくりというのは、特にヨーロッパでは古くから行われている  
という様子を伺いました。

もう1つ、東委員から、この東静岡付近の住民の御意見を伺ったアンケート調査の結果  
を御披露いただきました。後日、報告書までいただきました。そこから読み解きますと、  
東静岡付近の住民の方々は、かなりインターナショナル性といえますか、住民が外国人と  
交流することに対して、いわゆるヘジテイトすることなく交流したいという意欲を持って  
いるということも伺いました。

さらに静岡大学、県立大学、もう1つ大学があそこに集まる予定も聞いております。そ  
れぞれの大学が外国人用の宿舎を持つ。これは当たり前のことでございます。けれども、  
今回の場合は東静岡駅前に、静岡県が施設整備するということであるとすれば、静岡県内  
にある大学がこぞってそこを利用できる、インターナショナル的に利用できるという意味  
でございます。そういう施設があっても良いのではないかという気持ちが、だんだん大き  
くなってまいりました。

したがって、伊藤会長がおっしゃった200人規模、これは日本人を含めない方だ  
と理解しまして、3名ないし5名が大きな部屋をシェアするシェアルームという方式を考  
えております。その中には、外国人だけではなくて日本人に入ってください、このような

システムです。ですから、5人になりますと、そのうちの2人ぐらいは少なくとも日本人が良いのではないかと。そうすると、その日本人と外国人の割合というのは、少し変わるかもしれません。そこはあまり厳密にせず、いわゆる混住をすることが重要かと思っています。

それからもう1つ、日本人はどういう日本人かということになりますけれども、今日いただいた資料2の導入機能のところに留学生や県外学生への支援というのが書いてあって、次の欄には「留学生、大学生（県外出身者）」と、何も県外出身者に限る必要はないのではないかとするのは伊東学長がおっしゃってしまっていて、私もそれは同感です。静岡県は非常に細長い県です。三島から浜松まで細長い県ですので、そういうところから中央に集まるということの機会をできるだけたくさんつくるということにする。いろいろなやり方があると思います。浜松のほうから、あるいは三島のほうから入るかもしれません。そういうことを想定して、何も県外ということにこだわらずに県内外出身の学生がこぞってと、修正していただければありがたいかなと思っています。

要は何を言いたいかということ、日本人の学生もそこに住むということでございます。それから、どういう学生かということは、できるだけ初期の状態がいいなど。特に留学生は日本に来たばかり、それぞれ日本語を習うために大学で日本語教育が始まるかと思っています。そういうことも含めて、導入教育の時期を主体にし、最長でも1年間、1年生に限るという話をしました。今回、それを2倍にするということになりますと、ちょっとそれだけではなくてむしろ上級生も含んだ形で居住者を募るということです。もう1つ、私自身が懸念していることは、県が施設整備するドミトリーだということになりますと、もともと留学生を責任をもってお世話するというのはそれぞれの大学です。静岡大学が国際学生寮を準備して、そこに住ませるとというのが基本だと思っています。県立大学はどうか、少し微妙なところがありますけれども、いずれにしても、そういうことであるとすると、県として全体を掌握してそこに住ませるということは、やはり一時的で、さらに補完的な役割を持つ。さらには、それを特徴的な住ませ方、あるいはそこで教育の仕方というものがあるのではないかと。日本語を中心にするにしても、日本文化を少し大きな点から教育するというのもそこで必要じゃないかと思っています。そういう意味の臨時的なという旗を降ろしたくないかなと思っています。もちろん、外国人の人数が多くなるにつれて、それぞれの大学が足りない分を補完することもあり得ると思います。

そうした場合には、特に静岡市内にある大学が非常に大きな恩恵を受けることになりま

すので、その点については、やはり先ほど申し上げたような導入機能を含めて東は三島から西は浜松までの大学がこぞってそこを利用する、留学生が利用するという形のものを想定したいと考えています。その形で、規模をまず2倍にするということは大変良い提案をいただきましたので、それに基づいて私たちも検討を始めたところでございます。

これから国際化を迎えるに当たって、それぞれの大学が留学生を数多く導入することになると思います。その基本として、それぞれの大学が責任を持って留学生をお世話するということが原則であると。それにプラスして、そういう機能を持つということは余裕ができることとなりますので、その余裕を活用させていただきたいと、このように思う次第です。

資料5を、具体的な話として見ていただければありがたいのですが、インターナショナルドミトリーと称して、この前の提案から約2倍で6,000平方メートルと、300人と書いてありますけれども、これが先ほど申し上げた、留学生が少なくとも200人で100人が日本人という、こういうものでございます。3人か5人と申し上げた、部屋をシェアする人数については、今後さらに深く検討していきます。

さらに、少し具体的になりますけれども、トイレは各1人になると。それから、そのシェアルームの5人だけ、3人だけが仲良くなるのではなくて、できるだけ全体が交流できるようなことを心がけていかないといけない。したがって、全体が集まる、共用するスペースをできるだけ多くつくると。バスルームも中には設置しないことはもちろんでございます。日本的な共同風呂も必要であろうと、このような思いを持っております。

いずれにしても、ここの施設は大学固有のものではなくて県全体のものであるという観点から、国際寮をつくっていきたくないと提案する次第でございます。

参考のために、最近建てた静岡大学の雄萌寮の話、少し載っていますけれども、県外には非常にすばらしいインターナショナルドミトリーもございます。そういうところの施設をよく拝見しながら、今後検討を考えていきたいと思う次第でございます。

以上でございます。

**【伊藤会長】** 先生、どうもありがとうございました。

それでは続きまして、建物イメージについて寒竹委員と内藤委員から御説明をお願いします。寒竹委員からどうぞ。

**【寒竹委員】** 御説明させていただきます。先ほど説明がありましたパターン1を置いてみます。

資料6に書いてありますように、濃い青が宿泊施設で、ブルーが迎賓機能です。ピンクが、先ほど言いましたドミトリーの部屋で、オレンジがコンソーシアムで、グリーンが図書館とか食とか多目的な発信スペースで、グレーが駐車場ということで6案つくってあります。この形というのは、ユークリッド空間的にはつくっていません。ユークリッド空間だと、三角、丸、四角が違ってくるのですが、これは位相空間、トポロジカルにつくってありますので、長方形を基本に形がつくられています。

こうやって見ていただくと、あそこがちょうど富士山がここに見える位置なんです。そうしますと、この場所は、JRの操車場もありますので、これは川のようなものです。ですから、操車場に建物は建たないので、基本的にこの間から富士山がしっかり見えるちょうど良い場所にあるということでセットしてあります。

形の大きさというのは、宿泊施設とドミトリーというのは奥行きに限界がありますので、全部の部屋から富士山が見えるというような環境をとりますとこういう形です。ほかは、そういう大きさの制限はない。ここで考えなくてはいけないのは、1、2層が駐車場になっているということです。これぐらいのボリューム、1万5,000㎡から2万㎡ぐらいでは駐車場が関係してくるということです。この土地は、水位が80センチですので、地下駐車場は少し無理があるため、地下はほとんど使わない形で計画されています。そうすると、これぐらいのボリュームが出て、なおかつこのあたりに屋外駐車場を持ってこなければいけない。そうしたときに、街の四つ角に対してこういう空き地が、これぐらいできてしまうという形です。ですから、この土地は、この形だとグランドレベルでの建物と周囲との関係性が絶たれるのかなということです。

次の模型を。ここのコンコースから富士山がきれいに見えます。これがコンコースと同じ9メートルのレベルです。これは、駐車場を分散してみてもどうかと考えた駐車場分散案。各機能に対して駐車場を分散させて、壁のようなところを3つに分散した形で、なおかつどこからも富士山が見えるような形をとる。一番目的性のあるのは青とピンクなんです。目的性が薄いのがグリーンです。これを駅の近くに持っていったら、こういう配置になるのではないかと。

駐車場も、構内につくるのではなくて、せっかくこれが古代の道なんだから、道の近くにうまく公園的につくる。アプローチは、こちらからです。これは、グランドレベルもちゃんと広場的に使ったらどうかということです。ただし、これも1階から3階までは駐車スペースで埋まってしまう。

そこで、3階レベルにもグランドレベルにも駐車場を置かないで、その上に駐車場を上げて、富士山がしっかり見える庭園をここにつくってしまいます。その上に各機能を持ってきて、その下に図書館とかそういうものを持ってくる考え方です。3層で駐車場が見えない、グランドレベルでも駐車場は見えないのですが、駐車場が高いところにあるので、結局コストアップとなります。次の模型を。

これは標準階を5,000㎡ぐらいとして、高層にせず ゆったりとした場合です。やはりこちらから入れて、こういうようにまとめてしまうと、この辺りを駐車場に使わなくてはいけなくなってしまいます。駐車場はこちらのほうが良いのかなという感じております。全てのドミトリー及び宿泊施設からは富士山が必ず見える。ここでも、宿泊施設系は、片廊下でコスト的にはアップしてしまうわけです。中廊下で富士山半分は見えなくても良いよというような考えであれば、この幅が2倍になってコストダウンはできるけれども、一応この考え方は、どこの部屋からも富士山が見えるように配置した場合で考えています。これは、同じように1階、2階が駐車スペースになっているので、グラウンドレベルでの街との関係性に対しては疑問の残る考え方です。

次の模型を。これが、それではというもので、こちら側の2階に駐車場が入っています。グランドレベルには色々なアクティビティがあって、3階でも駐車場は関係ない。道路サイドのほうに、二層の駐車場を持ってきておいて、ここで入ってもらって、この上からこちらとつながっていくというようにすれば、高いところまで駐車場を持っていくコストも要らないし、3階から上は富士山も見えます。これが駐車場の考え方としては良いのかなと思います。

最後、これは、駐車場をべたっとしないで積んでいったらどうでしょうかという考え方です。積みば7層ぐらいのこういう駐車場になります。その上を使って、こちらサイドには駐車スペースを何も持ってこないというような考え方もあるのかなということです。ほかにもあるのでしょうかけれども、ここは500台の駐車場、1万5,000から2万㎡近いスペースをつくるとすると、駐車場をどう処理していくと街のために良いのかなと考えないといけないと思います。駐車場は、石原先生に緑化してもらえば良いという考え方もあると思います。

**【内藤委員】** 富士山が良いなと思ったんです。ただ、多分、寒竹先生も本当はバリエーションがたくさんあるのかもしれませんが、大体大きいバリエーションはこのぐらいかなという気がします。

やはり駐車場です。羽田空港と大体同じぐらいではないかと思えます。羽田にありますよね、駐車場棟。あのワンブロックが大体このぐらいと考えられます。あれを使っていると思うのですが、上のほうはなかなか行かないですが、駐車場がいっぱいだったらどんどん埋まっていく。そのぐらいでも良いのかなという気がします。さっきの「べたっ」というのは、ショッピングセンター型なので、ガラガラの駐車場が生じる時間が長くなる。そこが問題です。上のほうのブロックはいろいろな形もあるし、いろいろな乗せ方もあるし、やり方はありますけど。

多分、先生方に考えていただきたいのは、駅と接続するパブリックの部分を、上のほうに積んであるのはボリュームを示してあるので、下のほうの構成とか、あるいはどんな街にしようとか、グランシップとどう関係をつくるかといった低層部分が、実はとても大事なところだというようには思っています。

この説明は以上でございます。よろしいでしょうか。

**【伊藤会長】** どうもありがとうございました。

それでは、寒竹先生と内藤先生の御説明の後、交通基盤部長から東静岡地区景観ガイドラインの案を説明いただきます。お願いします。

**【交通基盤部長】** 交通基盤部長の村松です。どうぞよろしく願いいたします。

県及び静岡市は、東静岡地区における「都市景観検討技術会議」を昨年11月に設置し、同地区における美しく品格ある都市景観の形成に向け、東静岡地区景観ガイドラインの策定を進めております。

まず最初に、繰り返しになり恐縮ですが、前回の専門家会議において説明いたしました景観ガイドラインの中間報告について簡単に振り返ります。資料7のガイドライン（案）のイメージを御覧ください。

当該地区の景観形成の方向性を示すテーマは、「富士望み 緑の回廊 誘える 潤い賑わう 東静岡」。文化とスポーツの殿堂にふさわしい、美しく空間のあるまちづくりでございます。①から⑤の5つの目標を掲げ、下に示したイメージ図で景観的に考慮すべき要素の配置等をお示しいたしました。委員の皆様には機能や規模等を御審議いただいている「文化力の拠点」につきましては、図面上、東西と南北の矢印の景観軸が交差する左上に位置しております。

さて、4月以降の検討状況でございますが、これからの東静岡軸が目指す美しく空間のあるまちづくりを進める施策展開の切り口のキーワード、交流、文化、賑いの3つに整理

し、具体的な方策を現在検討しております。

まず、交流でございますが、留学生をはじめとする学生や子育て世代、様々な人々の交流を切り口とし、例えば広場や緑陰などのコミュニケーションの場づくりなどの方策を検討しております。

2つ目に文化でございますが、文化の風格を感じさせる空間を切り口とし、沿道修景のルールづくりなどの方策を検討しております。

最後に賑いでございますが、商業的な土地利用による賑いの創出を切り口とし、例えばオープンカフェの誘致などの方策を検討しております。

先ほど寒竹先生から模型を用いて御説明いただいた「文化力の拠点」の施設規模、配置等や、本日の御審議の内容を考慮し、景観形成の重要な要素であります文化力の拠点と街の景観が相互に良い影響を与え合うように、寒竹先生、内藤先生、東先生に御助言をいただきながら、7月末を目途に取りまとめてまいります。

以上でございます。

**【伊藤会長】** ありがとうございます。資料の説明は以上です。

それでは、資料の説明をもとにして委員の先生方からいろいろ御意見をいただければと思います。それで良いですか。それでは、これからオープンにいろいろな御意見をいただければと思いますが、まず、内藤先生、補足して何か御発言ございましたらお願いします。

**【内藤委員】** メモをとったりいろいろやりとりをしながら、寒竹先生が中心になってこういう御提案をしましたが、やはり本当にこれでいいのかなと思うのは駐車場のことです。駐車場が今、平面駐車もあわせると2万3,000㎡で、皆さん、模型を見ておわかりのように、かなりの面積です。建設費として駐車場が高いか安いかというと、建築的にいうと結構高いものなんです。駐車場は何もないから安くできるだろうと思っていらっしゃる方がほとんどでしょうけど、立体駐車場のお金で公共施設は苦労します。

そこで、どうしても必要であればつくるべきだと思いますが、一体全体、この地域の本当の駐車場の需要予測みたいなものになっているのかどうかということ、しっかりやるべきなのと、エリアとして駐車場をどう確保するかという戦略があつて、ここは今2万3,000㎡、駐車場に使いましようといったら、そこはちゃんと整備するという、もう少し大きいところからの駐車場戦略があつてもいいのかなという気がしています。

同時に、今、車のIT化がすごく進んでいて、10年以内にはかなり自動運転に移るか

もしれないという、そういうことも含めて、考えるべきです。あるいはセカンドモビリティの問題で、新しい交通の問題が出てきていますので、できたら、これだけの規模の施設ですから、そういう新しい時代の流れも受け止めたような駐車場というのを考えていったほうが良いのかなという気がしています。これは補足事項です。

【伊藤会長】      ありがとうございました。

それでは、一通り御感想ということで、学長の伊東先生からお願いします。

【伊東委員】      まず、先ほど荒木先生からインターナショナルドミトリーの200名プラス100名という規模を少し膨らませたということになりました。荒木先生とも少しお話をしましたし、それからコンソーシアムの方でも理事会で少し議論しました。

まず、留学生に関して、留学生の宿舎ということであれば、ほぼ静岡市内にある大学というのが中心になるのだと思いますが、それぞれの大学がどのくらいの留学生を想定して戦略を立てているのかというのを、もう少しちゃんと把握しないといけないかなと思います。静岡大学の場合には、ざっくり言って、現在在籍しているのは300名で、それを近いうちに600名、倍に増やしたいと考えています。できれば、大学全体で1万1,000名ぐらいいるので1割ぐらい、1,000名ぐらいというのが目標です。静大の場合には、浜松と静岡と分かれていますから、ざっくり半分だとして、600名になったときに300名ぐらいが静岡市内にしているようにしたいと。あと、県立大がどのくらいなのか。それから、常葉大が草薙のところに大きなキャンパスをつくるというように計画されていますけれども、そこでどのくらいなのかという。県内の大学の留学生戦略みたいなものも、ちゃんと把握してみる必要があるのではないかと考えています。

それから、県としても、県内の留学生がどのくらいの規模を想定されるのかと。留学生の場合、一生日本にしようとは思わないで日本に来るわけですが、大学を出たらすぐに国に帰りたいと思って日本に来るのもそんなに多くないです。やっぱり日本に来て日本で学んで、ある程度日本で働いて、そういう経験を積んで国に帰るとい、そういうビジョンを持って来るのが多いので、在学しているときから街にもっと馴染んでもらうというか、そういうようなことが必要かなと思います。

それとあと、荒木先生にも少しおっしゃっていただきましたけれども、県外の学生というように限定するのは、むしろまずいんじゃないかなと。今、静岡県は人口流出というのが1つの課題になっていて、特に県の東部の方には大きな高等教育機関がないので、県の東部から東京圏への18歳での人口の流出というのが結構大きいのです。だから、むしろ



高等教育機関が少ない県東部、伊豆ですとか、そちらの生徒さんたちが県内に魅力ある学びの場がある、そこに行けばある程度経済的にも援助が得られると、そういう環境をつくるというのも大事なのかなと考えています。

そこで、ただ県内に宿舎があるというだけではなくて、そこで学ばば県内にいながら半分留学みたいな経験もできるような場所です。そのような場所としての活用ができれば良いのかなというように思いました。

それから、今、模型を見せていただいて、確かに駐車場、こんなに要るのかなと。まだ全然ボリューム感ないのですが、ぱっと見た感じ、駐車場がやけに占めているなという印象を持ちました。内藤先生がおっしゃるように、需要予測みたいなものをしっかりやっておく必要があるのかなと。せっかく駅の近くに造るのですから、車に頼らずにということも考えたほうが良いのかなというのが1つです。

もう1つ、静岡大学とか県立大学から東静岡へのアクセスを考えたときに、どうやって東静岡に行くんだろうかと。今は東静岡まで行くバスがほとんどないのです。静岡まで行って電車に乗るといって、すごく面倒です。かといって東静岡にしかバスが行かなくなると、新幹線で大学に来る人は困ってしまうのです。ここからどうやって草薙とか静大とか、その施設へのアプローチというのが確保されるのか。バスターミナルのような、そういうのがあっても良いのかなだとか、そんなことも少し感じました。

以上です。

**【伊藤会長】**      ありがとうございました。

それでは、酒井委員、どうぞ御発言ください。

**【酒井委員】**      模型を見せていただきまして、だいぶボリューム感が現実なものとして見えてきた感じがして非常に参考になりました。

本筋から離れるかもしれませんが、たまたま私の今のオフィスの角度と似ているのです。富士山は見えるのだけど、正面ではない。東静岡の建物、特に東西にわたっているもので、どうせ富士山を意識するのでしたら、全ての部屋から富士山がちゃんと見えるようなつくり方というのはできないのかなと。富士山を見ようと思えば見えるという部屋と、富士山が常に見えている部屋というのは、価値が随分違うのではないかなという気がしました。今、道の並びに直角にというのが普通のパターンだと思うのですが、角度が変わって富士山を正面に見るようなものは難しいのかなと。そういうのを今、パターンを見させていただいた中で感じました。建築構想は考えていませんけども、それが1つ。

それともう1つは、今日の説明の中で、全く違う話なのですが、運営の方法がパターンとして資料4で御説明あったということですが、今日、ここでこれを決める場ではないということは十分承知しておりますけれども、やはりこれまで行なわれたPPPというのはわりと失敗例が多くて、失敗から学ぶといえますか、どういうところにリスクがあると思っていくのか。もともとPPPという事業手法でやるということになると、事業性といえますか、あまりないからそういう手法で使うというように理解していますので、官への偏りであったり民への偏りであったり、おそらくそういうものが度が過ぎるとうまくいかないだろうなという気がしておりますので、ぜひこの辺りは失敗から学ぶといえますか、間口を広げて御議論していただきたいなど、こういうことを考えました。

以上です。

【伊藤会長】 ありがとうございます。続いて、どうぞ。

【藤田委員】 今日寒竹先生から非常に分かりやすい模型で御説明をいただきまして、本当にこれが東静岡にできれば、この一帯が間違いなく変わるなというような感じがいたしました。

非常に心配に思うのが、予算というものをこれからどのように考えていくのかなというところでございますが、大きな税金を投入して、また建築コストも非常に高くなっているという中で、これをどのような形で確保していくかというところなんですけれども、いろいろな判断基準があるかと思うのですが、今日話にも出ましたけど、富士山の眺望、これを一番にとるのか、機能なのか、機能のボリュームなのか、予算なのか、こういったことを、もうそろそろどこかの段階であわせて、この中身と一緒に議論をしていく必要があるのではないかというように、今日の説明を聞いて感じた次第でございます。

以上でございます。

【伊藤会長】 はい、よろしゅうございましたか。東先生お願いします。

【東委員】 はい、東です。寒竹先生にこの6パターンのボリューム模型をつくっていただいて、大変具体的に分かりやすく拝見することが出来ました。イメージが湧き、この6パターンにより、ボリュームとともに駅からの通路や駐車場の位置により空間利用や雰囲気が変わってくるということも把握できました。ありがとうございます。

やはり、駐車場をどこにするのかということが一番大きな問題になってくるのかなと思います。

また1つ、私の調査では、富士山眺望についての御説明ではこの施設の中からすべて確

保できるというお話がありました。しかし、既に建っているマンションに住まわれている方にとっては、建物の背後になります。その方々にとっても富士山眺望を意識していらっしやるとなると、その問題をどのように解決していくのか気になります。

本日、機能面からはかなり充実して内容が深くなりました。若い世代、女性や子育て世代、そして学生、留学生という対象者も見えてまいりましたので、施設機能がより具体的にイメージできるものになったという印象です。

具体的な機能については、また改めてお話しさせていただきます。

【伊藤会長】 どうもありがとうございました。

続いて、どうぞ御発言ください。

【石原委員】 私、個人的な意見としてお話をさせていただきます。

この静岡で富士山が見えるというのはここだけだと思います。ですので、民であれ官であれ、ここを利用するに当たっては、全てから富士山が見える、この価値というのは、すごく魅力的ではないかなと。ですから、建物が少しカーブするとかそういう工夫をされると、1つは良いかなと思います。

もう1つは、何を学ぶかというところに関しまして、是非私としては、こちらでランドスケープだったり緑だったり花だったりを学べるということも1つテーマに是非入れていただければと思います。そういった観点から、全体のコストの中でどのくらいかかるか分かりませんが、緑化コストというのを当初から入れていただいて、日本のどの建物よりも美しいと、海外からもこの美しい建物を見に来たいというようなシンボルとなり得るような緑化、デザインを、世界中からコンペでも何でも良いのでやって、そこが最先端であるということも1つテーマに入れていただければと思います。

あとは、やっぱりそういったことがあることで、静岡県内の造園業者、生産者、いろいろな方々のレベルアップにもつながるのではないかなと。そういうことでパブリシティ効果もすごく得られて集客になるのかなと。

最後に、駐車場の件なんですけれど、確かにあそこに駐車面積が多くて、模型では灰色の面が多いかと思うのですけれども、これらは緑化によって少し防げるのではないかなということと、やはり現実的には駐車場の面積がある程度ないと、何かのイベントとかいろいろなときに利用価値が少し削られるのではないかなと。ですので、例えばグランシップと上手にリンクして、何か駐車部分が、要は共有するとか、分散するとか、そういうことが工夫としてできないかなということを思いました。

以上でございます。

【伊藤課長】 はい、どうもありがとうございました。

寒竹先生、何かございますか。

【寒竹委員】 全ての方向に富士山が見える、これは内藤先生と私でつくったのは、先ほども言いましたように、ユークリッド空間でつくっていないので、方向を変えたりするのは全くこれでできると思います。

あともう1つは、建物が下のほうに駐車場があると、駐車場のルールで上の構造が決まっていくわけです。そうすると、人間の空間なのに駐車場の空間が決めていくような部分があるので、例えばこの案ですと、駐車場からの構造がフリーになっているように上につくるとか、石原委員のおっしゃったように、御家庭の駐車場というのは、ちゃんと駐車場があって庭と一体になったような、そういう作り方もできるわけで、数に対しては、内藤委員がおっしゃったように、これが適切かどうかをもう1回確認しないといけないですが、そういうランドスケープと一体になったような駐車場提案を静岡はここでやるというようなことも少しやったほうが良いのではないかと。駐車場は迷惑施設ではないというような発想もあっても良いのかなと思います。それには、適切な数を算定、指定し直さなければいけないのかなというように感じています。

【伊藤会長】 はい、ありがとうございました。

それでは、これからいろいろな点で、いろいろな観点から御発言をいただきたいと思いますが、私の問題提起は、駐車場は屋外と屋内では全然コストが違います。屋内駐車場だと、1,000万円近い時代、1,000万円近い勘定をしたことがある。今は下がりましたか。

【内藤委員】 坪単価でどれぐらいだったか。間違っていたらすいません、60万円ぐらいなのかな。

【伊藤会長】 十何坪位でしょう。駐車場1ロット。

【内藤委員】 大体1台30㎡ぐらいですから。

【伊藤会長】 十何坪位ですね。

【伊藤会長】 だから、駐車場を屋内にするというべらぼうなコストが、多分、ここで民間とバスとで百何十億円ぐらいのお金がざっとかかるんじゃないかという気がするんです。これは私の印象で、専門的なことは寒竹先生にお願いします。

それから、今御発言がございましたけど、カーシェアリングとか、ああいうのが急速に

出てくると、駐車場の機能が全然変わってしまうのではないかと思うんです。猛烈に、今、自動車のイメージが変わりつつあるでしょう。だから、そういう点では、もう1つ駐車場についての将来の姿を、何人かの先生も御意見ありましたが、特にバス以外の普通乗用車についての算定が、今、600台ぐらいですか。その辺についてもいろいろ御検討を、これからもう少しする必要はあるかなと思うのが1点と、反面、伊東学長もお話になっていましたけど、それから何人かの先生も、この東静岡というのは学生が期待する場所として、さっさと行こうという、なかなか行けないという、そういうハンデキャップがございます。そうすると、学校からは、定期的な、頻繁にシャトルのバスが動いているんです。

多分、バスのオペレーションも自動車革命の中では相当これからは気楽な形でできるような、そういうコストでやれるんじゃないかとか、いろいろな話題が出るので、むしろ個人の乗用車もさることながら、学生がここへ集まるような、それぞれのキャンパス、キャンパスは大学だけじゃなくて良いと思うのですが、研究所でも良いですし工場でも良いです。そこからのバスのオペレーション、どれぐらい画期的なことを提案できるかというのは、意外とここの新基軸になるのではないかという気がしまして、先生方のお話を伺っていたのです。

それからもう1つ、根本に戻って、知事の御発言の、「文化力の拠点」とは何ぞやというところにいつも戻る必要があると思っているのですが、それは今日の先生方の御意見だと、海外の若い力を、留学生をここへ呼び込んで、それで日本の若い学生たちと混じり合わされて新しい文化が出てくるのではないかというようなお話と、それからもう1つは、意外と大事だと思うのですが、東海道です。東海道と富士山という日本固有の一番重要な文化をここで改めて体現していくというような、そういうことです。これは歴史的な話なのですが、そういうところと、それからもう1つは、食の文化ですね。食の文化が意外と私は重要な気がしてまして、ここで若い学生たちが集まるということのほかに、それに関連する中でいろいろな人たちが集まってきたときに、特に海外の方に対して食の文化をどうここで発信できるかということとか、それから3つ目に大きいのは、東海道の歴史と食の文化と外国人と日本の若い方とで交わる、こういう3つぐらいのお話も、「文化力の拠点」という中で、今までの議論の中で私の頭に残っているのはそういうところなんです。もう1つ、文化力という意味では、ここで何を外側に対して発信するか。こういう点についての御感想、御意見を伺いたいと思っているのですが、いかがでございましょうか。内藤先生、何かありますか。

【内藤委員】 文化って一番難しいテーマで、我々、トライするのが難しい問題だと思います。本当は芳賀先生とか高階先生に言ってもらうのが良いのかもしれないのですが。草薙のときからやらせていただいたので、全部関わってきました。静岡ってすごく豊かなんだけど茫洋としている市街地の感じがあって、捉えどころがない。そこに輪郭を与えるというのが知事のお考えなのかなという気がします。

実は、今日、会議に来る前に、大谷の学校を改修した地球環境史ミュージアムを見ました。それで、実にすばらしい試みで、少し言葉は悪いのですが、あんなところに置いておくのはもったいない。非常に密度があって、ああいう視点がもっと一般の方にも見えてくると力になるなど。あれが1つのヒントかなという気がしました。とてもすばらしい、いわゆる太古の歴史から現在まで、それから自然に対してどう考えるかというようなところまで深まっています、なかなかすばらしいなと思います。ひょっとしたらそれの一部でも良いので入ると、特に外国から来られた方は非常に興味を示すんじゃないかなと思いました。

【伊藤会長】 ありがとうございます。寒竹先生お願いします。

【寒竹委員】 文化といいますと、生活の仕方といいますか、どう住まうかというところからいくと、静岡というのは、天気が良く、気候がすごく良くて、県でも進められていますけど、家・庭一体の住まい方という、東京ではできないような空間を持つ文化である。なおかつ、それは日本的な文化でもあるので、こういうところに来ていただいて、家・庭一体でないというのは地中海にしる北欧にしる、街はそういう空間の構成になっています。

ですから、ここは、広い土地に、伊藤会長がおっしゃったようにそんなに容積率いっばいに建てなくて、ゆったりです。ゆったり文化です。ゆったりとした、気候が良いところで半戸外というか、外での活動も楽しいというような、そういうような空間を用意すると。それが静岡の文化であり、駅であると思います。東京のようにびっちり詰まった建物じゃないなというような、それをコストをあまり上げないで、そういう文化を目で見えるようにここには計画しても良いのかなと思います。

【伊藤会長】 ありがとうございます。良いお話を聞きました。石原先生お願いします。

【石原委員】 文化ということで、私も専門分野ではないのですが、そもそも見た目というか、いろいろなものがとんがって良いのではないかなというように思います。

【伊藤会長】 とんがって。

【石原委員】 とんがって。例えば、表も全部ガラス張りにして、全部富士山が見える。例えば民間でテナントを入れるときに、おいしくないと入れないと。とんでもなくお茶がおいしいとか食べ物がおいしいというのは、そういった意味で、とにかくとんがると。おいしくなかったら入れないんだよというぐらいのクオリティを上げる。あと、やはり東海道と富士山の関係をちゃんと見えるようなランドスケープといますか、そういったところで、まず外国人の方々がここに見に来ると。見に来て、それからとんがっているから、ここで学びたいと思う。要は、例えば構造自体も、全部こういうような返しになっているとか、配管も全部見えて、配管の勉強にもなるとか、最先端の建築技術と最先端の緑化技術が、ここ、建物そのものが教材になっている、駐車場のあり方にしても、例えば、私、今回、自分のお話をして申しわけないのですが、イギリスでガレージガーデンというのをつくりました。イギリスでは、庭を潰してガレージをつくる。そうすると、車が好きですからつくるんですけど、緑化率が減ります。ガレージと庭を一緒にしたら良いのではないかなということで発表いたしまして、それはすごく注目を浴びたんですけど、こちらでも、私はガレージがいやなものではなくて緑を工夫することによってガレージそもそもが庭なんだという発想も、1つは、そういう考え方こそが私たちの文化になっていかないのかなとか、少し車を嫌いになっている方々から、もう少し、車をもう1回好きになってもらいたいというようなことも1つの文化にあったりということで、大きなテーマは、全てがとんがるということ、テーマにしていいただければおもしろいかなと思いました。

【伊藤会長】 はい、ありがとうございます。どうぞ、東先生。

【東委員】 先ほど資料2では、会議を重ね東静岡の「文化力の拠点」は、静岡の東から西までの大変多様な自然に生まれ、東海道の歴史、文化もある中での積み重ねを発信するコンシェルジュ機能の位置付けがなされています。静岡の各地へ誘う拠点としての役割として、私はずっと受け止めています。

その玄関口は、ここに住まう人たちにとっても、またこれからの構想で若者たちが集まる、また若い世代の家族が住まう意味でも、大変大きな役割を持っていると思います。特に改めて静岡のことを話すのは気が引けますが、昨日の森林審議会に出席して第一次産業としての木材産業が6次産業化したり、ブランド化しています。食、お茶、花もそうです。それを育て加工することがどんどん進化しているように思います。ブランド化し、静岡ならではのものを生み出している。それは、県内、県外の方からも魅力です。国外からもそ

れは魅力となり、ここは学びの場の玄関口になると思います。ここへ来て日本を学びながら自国に関係する、また新しい産業を興したい学生たちが来て、体験する場になります。伝統工芸なども盛んですし、豊かな歴史文化の中で積み重なったものを川勝知事が発掘していただいて参りましたので、ブランド化、磨かれてきたものを、今度は世界の人たちに発信していく拠点機能を、有していると思います。

県内の地域産業がどんどん進化させているものを、案内し提供していくことが拠点機能としてはふさわしいと思います。

それと、文化とは異なることを申し上げてよろしいでしょうか。

【伊藤会長】 はい、結構です。

【東委員】 先ほどの駐車場について、私は、静岡大学の近くの大谷に住んでいます。駅から遠くて、タクシーですと片道2,500円位です。そこで、車に乗って静岡駅に駐車し、何時間置いても1,200円上限です。東京に出張したりする時は、主婦感覚からすると、タクシーに乗るよりもお安く済みますし、すごく楽ですし、便利さを実感します。

【伊藤会長】 1日1,200円ですか。

【東委員】 そうです。最初、1時間300円ですが、1,200円を超えると24時間置いても1,200円です。清水駅では300円です。

【伊藤会長】 1日300円ですか。

【東委員】 駅で近くて500円とか。ですので、上手に駐車場を利用して電車を使う利便性が駅駐車場にはあると思います。

【伊藤会長】 分かりました。

【東委員】 駐車場も、「文化力の拠点」としては、先生がおっしゃるように、文化の香りが高い、先ほど部長がおっしゃられた品格ある空間を形成していくというのは当然のことですし、ここに住まわれている2,091世帯の9割の方が景観に対して重要だと思っている人たちが住まわれているので、高質な都市空間を形成していく必要があると思います。

それから、最近、地球環境史ミュージアムからバスが1日三、四本、東静岡に出ています。公共施設ができて利用が多くなると、バスが住宅地の中も通るようになり、大変便利になりました。利用が多くなればどんどんバスも増えていくのだと私は思います、それが静岡の便利な点になります。

【伊藤会長】 どうも、大変貴重な主婦感覚でありありがとうございました。

では、どうぞ、続けて。



【藤田委員】 今回、コンシェルジュ機能を持った発信の場であったり学びの場であったり、出会い、交わる、いろいろなセクションに分かれた機能が多くあるわけですが、そう考えた中で、「文化力の拠点」の文化は、どういった位置付けでどういったものなのだろうと、私なりに考えた中で、この施設に来た方、関係する方だけではなくて、要するにごく一部の方だけでなく、どなたでも、東静岡に来たときに静岡の文化を感じられる、帰ることができる、学ぶことができる。そういうような敷居を下げて県民皆様がここで静岡の文化を感じられるというような位置付けのものができることによって、ここが本当に静岡の玄関口になっていくのではないのかなというように私は考えております。

以上です。

【酒井委員】 「文化力の拠点」のことについては、東先生がおっしゃったゲートウェイ的な部分というのは、私も初回のこの会議で申し上げたとおりでございますので、これは静岡の魅力を発信する場所として是非持たたい機能かなと思っておりますので、それがコンシェルジュの中で入ってきているのはありがたいなと思っています。是非、その辺にあるようなという良くないですけど、安っぽい観光案内所じゃなくて、そこで学んで実際に行ってみよう、行くためにはどういうルートがあるのか、そういったところまでちゃんと教えてもらえるようなレベルの高い案内機能を持ったものができたら良いなと思います。

それとあと、留学生と日本の学生の交流の中での文化力ということに関して、おそらくここのコンソーシアムであるとか、あるいはドミトリーで完結するものではないわけでございますので、それぞれの大学の中でその留学生との関係をどうするのかというのがまずあって、それを補完する意味として、ここにどういう機能を乗っけるのかと。あるいは、掛け算することによってより高くすることに、どういう機能があるのかというような議論も必要なのではないかなという気がしています。

この紹介の中にもありましたけど、APU、立命館アジア太平洋大学に行く機会があったのですが、印象的だったのは、日本の学生が、1週間で私は国籍を意識しなくなりましたということをお話していました。そのくらい、向こうの外国の学生と話すことによって、最初の1週間は「私は日本人で」から始まった言葉が、1週間でなくなったと。すごいことだなと思いました。ですから、そういった大学の本来の機能としての部分と、この東静岡での機能と、どういように持たせるのかという議論が欲しいなと思いました。

もう1つ、私、観光コンベンションの立場でございますが、会社は静岡鉄道でございますので、バス会社も運営しておりますので、バスの話が出て、何かおもしろいパターンを考

えられないかなと思って、今、ずっと考えていたのですが、バスというのは非常に道路運送法の規制が大きくて、なかなか新しいパターンというのができてこないというイメージがございます。ただ、今回、これがこういう形で留学生が増えてきて、コンソーシアムの機能を持って各大学との行き来をやるということになると、何らかの今までと違うパターンの輸送というのをやらなければならないです。ただ、そうなってきたときに、主語が明確になっていないとできなくて、法律で規制がある中でいくと、私どもができるのはお客様から直接運賃をもらう行為なんです。片道200円とか300円とか、そういう行為です。あるいは、貸し切りバスとしてチャーターをしていただいて、1日1台10万円とかいうようなパターンしか、法的にできないんです。ですから、それを外れてやるということになると思うんです。それを誰がという主語を明確にした中で、どういう形態をとっていくと、大学にとって、あるいは学生にとって、留学生にとっても便利な形態になるのかというので、もしある程度絵が描けるのであれば、これ、おもしろいものができるのではないかなという気がするものですから、トライする価値はあると思っています。

既存のバス路線でいきますと、例えば静大と、今は静大がメインに静岡駅に出ているのですが、静岡の方言なのかもしれませんが、「谷（や）」が違うんですね。道路で「谷」が違うという。「谷」が違うというのは方言ですか、共通語ですか。「谷」が違うというのは何でしょう。道が違うんです。

【伊藤会長】 道が違う。

【酒井委員】 ええ。ですから、静大と東静岡と今中心である静岡を結ぶとなると、どこかですごく遠回りをしてこないといけない。それを一般のお客さんはなかなか認めないので、そうなってくると、先ほど言ったような特別なことをやらないといけなくて、普通のバス路線ではなくて、ここでのみ使えるようなおもしろい形態ができれば価値も高まると思いますし、ここの機能としてそのくらいのものであればいいような気がしておりますので、その辺りについても、会社の業務としても研究をしたいと思います。

【伊藤会長】 どうも良いお話をありがとうございました。

【荒木委員】 「文化力の拠点」ということの話の前に、寒竹先生が、静岡の文化ということを通じておっしゃってくださった。ゆったり文化といいますか、せこせこしていないということなんですけれども、少し逆のことを考えますと、ここの建物を今我々は何とかしようとしています。グランシップと新しい建物の、これはゆったりし過ぎているのではないかと思うのです。「文化の拠点」と言ったとき、グランシップも含めた全体像を考え

るといのは、最初の我々の目的だったと思うのですが、今、グランシップが置いてけぼりになっております。

ということは、グランシップも新しい建物も一緒に考えるということが必要だと思うのです。少し密にする必要がある。ゆったりし過ぎないことが必要だと。絶対にやってはいけないことは、1階、2階に駐車場をつくってしまうこと。道路に人間があふれ、歩いているところに駐車するようなスペースであそこを進めてはいけない。それから、駐車場は、グランシップも含めてまとめるべきだと。最後に出たC案に駐車場をまとめてしまう。できるだけ新しい建物とグランシップは近づけるべきだと思っています。といのは、少し密なところがないと、みんなどんどん疎遠になってしまう。拠点といのは、あそこに行けばきゅっと詰まっているということだと。文化のいろいろなことが静岡県の特徴がわかる。それは、先ほど酒井委員がおっしゃったように、薄っぺらではなくて中身までずっと深掘りもできるということが拠点だと、私は思います。

そういうような機能を持たせるといったときに分散してはいけませんので、夜になってお酒飲みでうろうろしてたくさん赤ちょうちんが密になっているというのも込めてですけれども、これは非常に大事です。静岡と浜松の文化で最も違うのは、夜の赤ちょうちんの密接度が全然違うことです。浜松は完全にさびれてしまいました。まさしくゆったりし過ぎている。ですから、これは何とかしないといけないかなと。ここをそういう空間にしてはいけなくて、やはり密にした空間をつくっていく。駐車場の1階に位置する案、2階に位置する案を見せていただきましたが、それは絶対につくってはいけなくて、道路に面した人は、賑わいはそこから創設される。グランシップは、残念ながら、大きな音楽会とかそういうことをする場所なものですから、1階、2階のところにそういう赤ちょうちん的な要素はありません。そうすると、「文化力の拠点」の方でそれを代替すべきかなと。そうすると、音楽会が終わった後に、隣に移動して少し夜中まで過ごすということがあってもしかるべきだと思っています。そういう機能を持たせることが必要かなと思います。

ですから、こせこせしない程度の密ということは少し難しいですけれども、ある程度、少し歩けば別のものが食べられる、別のものが経験できるということが、拠点という意味だと思います。

確かに、この東静岡の付近は日本平からも含めて、ものすごく大きな富士山のすばらしい眺望が見られる。しかし残念ながら、交通手段を使いしばらく移動しないと、それが見れない。三保の松原に行くまで大変だという状況です。そこは、それを体験できるよう

なことを、中にそこをつくって、それはただ安っぽいイントロダクションにならないということはどうすれば良いかと、これは非常に難しいかもしれませんが、そういう機能を、この新しい建物の中につくるということは絶対に必要かなと思っています。

それと同時に、中身のあるということは教育です。若者に対する教育というのは、インターナショナルな教育の拠点をといることは大変うれしい限りであります。ただ、その拠点が、何度も申し上げて申し訳ありませんけれども、県が責任を持った拠点でなくては行けませんので、静岡県として責任を持つということは、各大学等が持っている留学生に対する責任とどう違うんだということになります。

もう1つ、先ほど言うのを忘れたのは、ここのインターナショナル性は何も既存の大学のものだけではありません。県が企業に対して研修生を受け入れる、川勝知事がモンゴルから100名呼ぶという話を前にされました。どんな留学生か私もまだ理解していませんが、それは大学だけではないと私は感じました。企業への研修も含むのではないかと思います。そういうところの拠点の機能も持たせないといけないかなと。そうすると、これはコンソーシアムの中に、川勝知事の提案ですけれども、大学だけではなくて民活といひますか、行政はもちろんのこと、企業も入ってくださいということを提案していただけていますけど、やはり企業と一緒に大学がこのコンソーシアムの中で構成のメンバーになって、そして全体を盛り上げていく要素が必要かなと思っています。

お願いすることは、駐車場を1階、2階につくるのをやめてください。路面から見るところに賑わいをつくってください。これをお願いします。

**【伊藤会長】** ありがとうございます。

**【伊東委員】** 大学コンソーシアムの方でも、設立をしたときに、知事から難しい宿題をもらってまして、「静岡学」を興せという、そういう宿題をもらっています。難しい宿題を沢山もらい、1つにまとめて考えるほうが楽なので、「文化力の拠点」と一緒に考えていました。「静岡学」の方では具体的に何をやり始めたかということ、「静岡学」が漠然としているので、まず富士山をテーマにして共通の講座をつくりましょうと。いろいろな大学の学生に勉強してもらいたいが、週に1回集まろうといっても集まれないので、合宿して、1泊2日を何回かやる。それで単位が取れるような、そういう講座をつくっていきましょうと。それで、富士山学というのを考えたときに、富士山は自然遺産でなく文化遺産なんです。ですので、富士山というものの文化的な価値であるとかそういうものも含めて、それから静岡大学には自然地理のほうで富士山をやっている人もいますので、富士山という

のをいろいろな側面から考えていくというので、15回分の授業に相当するようなボリュームを用意して、大学の共通の授業として去年ぐらいからやり始めました。今年は、またもう1回富士山をやりましょうということのほかにも、お茶をテーマにして、もう1つ別の講座をつくっていきましょうというようなことをやり始めました。

これ、そのときだけで終わってしまうのはすごくもったいないなと思いますが、それを担当している先生に何度もそれをお願いするわけにもいかず、何らかの形でそういうものを追体験できるというか、そういうような機能というのがここに持たせられればおもしろいかなと思います。日本中どこの地に留学した留学生でも富士山は1回見てみたいというのです。だから、静岡県内の大学に留学生を呼んでくるというだけではなくて、日本中のいろいろなところに留学している大学生に、留学期間中に1度は静岡に来てもらい、静岡というところを知って国に帰ってくれというような、そういうものを、ここを使ってできれば、富士山でも良いし日本食でも良いし、そういうようなことがここを使ってできれば、「文化力の拠点」というものの1つのあり方だということになるのかなというような気がします。

【伊藤会長】 どうもありがとうございました。

先生方、どうもありがとうございました。荒木先生の御指摘は誠にもっともでして、建築の先生も十分承知していながら1、2階に駐車場を置いたと思うのですが、知事の前で恐縮なのですが、乱暴なことを言いますと、駐車場って外でもオープンでも関係ないと。この模型は寒竹先生に、この敷地の中でいろいろ苦労されているのですが、荒木先生がおっしゃったように、グランシップと今度のところが必ずつながって一体性があって、それが駅から降りてきた人に、これは一体的な新しい施設をつくってくれたのでグランシップと一体感ができたんだなと、そういうように思わせるような、そういうイメージというのが大事かなというのが1点です。

それから、素朴に言いますと、やはり1階のグランドラインというのは大変重要でして、例えばこれはヨーロッパの街はどこにでもあるのですが、コンサートが終わったり芝居終わった後、必ず聴衆はずっと地面を歩いて、そしてそこにちょっとしたパブがあったりちょっとした酒場、バーみたいなのがあったり、それが沢山並んでいますよね、下町風で。そういうものはグランシップの前に、1階でずらっと、場合によっては、どうぞおいでくださいという囲み型であって、そこにずっとみんな入ってお喋りする。そういうようなイメージというのは1階に備えるべき大変重要な機能だと思っているのです。

ですから、問題は、そういう場所をグランシップが閉じているときにも賑やかにどういようにしたら良いかということで、そうすると、これも大変乱暴な話ですが、若者に任せしかしようがないと思うんです。そういうところに品のいい40代、50代の方々が毎日来るかという、絶対に来やしないです。若い人たちは相当おかしいことをやるけれども、毎晩毎晩そこをうまく使って新しい仕組みを出して、そんなことが1つあるのではないかと思います。

それで、いろいろ言っていますけど、やはり富士山と東海道の景観というのをどの程度うまく使えるかが勝負なのですが、それをもとにして、今伊東学長がおっしゃった、日本に来た留学生は、1度は富士山を見て、富士山の話聞いて帰るという場所に、これができれば大成功だと思っています。それで、200人の留学生ということ全部ステーションするために必要かと。必ずしもそうじゃなくて、荒木先生もおっしゃいましたが、100名は各大学で割り当てて、静大が50名で、県立大が30名で、常葉大が20名ぐらいにしますか、残りの100名は、企業研修であれ、あるいはほかの大学の旅行の途中でここへ二、三泊するのであれ、いろいろな不定期の方がここへ来て、それで集まって、ステーションしている地つきの寄宿舎の外国人の若い人が話をして、それで飲み屋に行ってお喋りするとか、そういうランダムな若い人たちの出会いがここで行えるような、そういう場所にできたら、これは一つおもしろいなと思っています。そういう点では、静岡では本当に使えるのは、食ではお茶で、景観では富士山で、それから地理では宿場町だと思うのです。これをあんまりディズニーランド型にするのでなくて、もう少し真面目な形でうまく自然に見せられるような形で、ここへ来れば何か体験できるというような場所にしてみたらどうかというのが1点で、それから全く、相当危険な話をするんですけど、回教食ってあるでしょう。ハラルの完璧な食は静岡で供給すると。埼玉でやっているらしいのですけれども、静岡が構えて、率直に言えば、静岡は全部ウェルカムだと。インドネシア、1億5,000万人ですか、2億人ですか。

インドネシアの方々も歓迎しますと。静岡は、ちゃんと国際化という名のもとに徹底的に受け入れる場所がここだぞと。これは表へ出しませんけど、川勝知事ならそれぐらいのことをやるのではないかと思います。マーケットです、これは。おまけに、彼ら、日本に来て真面目で良い学生です。変なことしないです。特に若い女性は、本当に日本に馴染んでくれます。

だから、結果として静岡は国際化といっても、何もキリスト教とかユダヤ教ではなくて、

宗教は平等であるというのは、ハラールを含むインドネシアのそういうものもここで良かったなど。静岡の男の子と出会いがあったというのは、アクセントをつけた、そういう場所にすれば少しおもしろい、新しい文化をつくる拠点になるのではないかなと思ったりもしています。

どうですか、知事。相当言えないことを言ったのですが。

**【川勝知事】** 今のはさすがに、先生、ありがとうございます。ハラール、実は空港で小さなビルがありまして、あそこに1つしか食堂がないと。今、増設をしないといけない。外国人の乗降客数が地方空港でトップです。全国、成田とか羽田も入れて、外国人の乗降客数全国で8位です。

それで、増設せざるを得ない状態になりまして、そこにハラール食専門のお店を入れると決めてあります。そういうパンフレットもつくりまして、静岡県下に、いわゆるラーメン屋も含めて2万軒ぐらいあるわけですけど、そういう人たちに周知徹底するようなことをやっています。静岡は1日1,200円ですけども。

**【伊藤会長】** どうぞお座りになってゆっくりお話をください。

**【川勝知事】** 貴重な意見をありがとうございます。

清水では300円ですか。空港ではただです。2,000台置けます、全部ただです。それは青空駐車でございますけれど。

さて、ハラール食、空の玄関口でそういうものを入れる。また、ジューウィッシュの方たちはもっと厳しい、コーシェルといったかな。

**【伊藤会長】** コーシェルですね、ジューウィッシュ。

**【川勝知事】** そうです。これも、今、研究しているところです。とりあえずはハラール食を設けることによりまして、ムスリムの方たちが安心してお食事できる場所は用意すると。さらにプレイルームですね、お祈りをする部屋というのも、決まった時間にお祈りされるので、その部屋もきちんとつくると。こういうことを差し当たって空港からやっているのですが、あれは空の玄関口。ここは、先ほど内藤委員におっしゃっていただいた草薙のこのはなアリーナ、ここが玄関口になって、そういうものを伝わって、そして先ほどのふじのくに地球環境史ミュージアム、あれは12億円です。普通、あれだけのものをつくろうと思ったら120億円かかるんですけど、10分の1でつくりました。それはそれとしまして、ああいう不動産といたしますか、全体、日本平の頂上から麓に至るまで、ここは陸の玄関口なんです。ですから、そういう意味でここが、玄関の佇まいというのは極

めて重要だというように思っております。

そこで、内藤先生にまとめていただきましたように、富士山と東海道と、これは東海道のまさに古代の東海道が通っているわけですから、もちろん旧来の東海道もこのところの一部を通っているのですが、そこは落とせないと。それから、食と出てきました。それでハラル、あるいはお茶ということで、今度は食文化を乗せていかなくちやいけない。それと、荒木先生から、または伊東先生とお2人で、ここがもう少しグランシップと東静岡の考えているところ、真ん中がごそっとあいているわけですね。ここを一体として考えるべきだというのは、新しい提案です。しかし、言われてみれば当然のことです。ですから、その真ん中に緑の空間があって、そのアクセントが唯一あるのです。それは、石原委員の桃源郷が、隅のところに30坪ですけれども、あるのです。それがものすごい魅力になっていまして、今回は、何しろ東海道の駅です。そこから出てきてどういうところに出るかというのは極めて重要で、その出たところがお庭だった、深い森だったと。しかし、その周りには図書館だとか、あるいはコンソシアムだとか、あるいは上の方のホテルだとか、学生寮だとかがあるという、そういうことなんです。

下を駐車場にした理由は、御案内のように、そこに下から建物をつくっていくと全部埋蔵文化財調査をしなくてはいけないということで、それを避けるということのために空間をあけるということで、そこに駐車場を整備します。また駐車場の高さは駅から来られるところをいわばグラウンドと見なして、その下に駐車場があると。しかしながら、グラウンドレベルでは、人々が歩いていらっしゃるので、そこのところをどのようにしつらえるかと。ですから、いきなり駐車場が見えるというよりも、一定の幅セットバックして、そのところに店だとかそういうようになって、奥側に、つまり線路側はオープンにして、両側は、人が行けるようなところには店なり賑いの空間があるようなしつらえがどういう形でできるかなというようなことも、あわせ技で考えなくてはいけない。

また、1階、2階を駐車場にした理由は、これらの埋蔵文化財調査をすると3年、10年かかりますので、それを避けるために柱だけ建てるというようにしたのが大きな理由です。

**【伊藤会長】** どうもありがとうございました。

これから次の段階に行くと、実務的にどのぐらいコストがかかるかということになりますと、今の知事のお話の駐車場の問題も、その辺りから皆様にいろいろな説明できる資料を御用意いただく必要があります。



【川勝知事】 先生、この真ん中の空間は緑なんです。これが道路なんです。ここがすばらしいきれいな芝生になっています。ここに桃源郷があるのです。これが小桃源郷で、これが中桃源郷で、これが大桃源郷という形。

【伊藤会長】 建物のデザインは内藤先生、寒竹先生がおられるので、全幅の信頼をお願いします。

【寒竹委員】 先生、少しよろしいですか。先ほどおっしゃったように、せっかくこれをつくらせていただいて、東海道が通っている真上にロータリーがあるのです。だから、それを言ってしまうと大変になるかなと思ったのですが、ロータリーがもう少し南側にいくと良いのです。

このロータリーが全く邪魔なんです。この東海道をずっと整備すれば一体化します。ロータリーはもう少し南側に持ってくる。そうしたら、一体になる。これがものすごく邪魔なものになっているのではないかと。

【伊藤会長】 そのロータリーがこっちに今あると。

【寒竹委員】 ロータリーを動かすことができるのならです。ロータリーはもう少しこっち寄りにしておいて、ここに一体化した東海道公園ができる。

【伊藤会長】 そこから富士山が見えれば言うことないですね。

【寒竹委員】 この位置がものすごく悪いなということを、模型を作成していて思いました。

【東委員】 そうしたら、現在、駅を降りて正面に見えるパチンココンコルドです。このロータリーを改変していただけると良いことに同感です。当初からお話しさせていただいてありますが、駅南口も北口も同じロータリー形状で、この度の県有地に建設する際に、駅前広場をデザインしていただく必要があります。

【寒竹委員】 ロータリーが、もっとこちらの街の方へ。ここを1つと考えて、ここは全体に考えるとおもしろい。

【伊藤会長】 寒竹先生がおっしゃるとおりです。

【寒竹委員】 すっときれいに東海道が見えてくるんです。

【伊藤会長】 通りを切らない、通りは真っすぐいかなきゃだめです。

【寒竹委員】 これをもうちょっとこっち側に寄せるんです。そうすると、これが一体になります。

【伊藤会長】 私はそういうことで商売を50年やっていますから、寒竹先生の言うこ

とがよくわかりますけど、これは役人の世界で相当いろいろな手続で知事もお悩みになると思いますが、ロータリー動かすことをやりましょう。

そこを歩いたっていいのです。私、今までグランシップをけなしてばかりいたんだけど、こうなると、これ、事実ですから。もう存在していますから。もう少しブラッシュアップしてきれいにしてください。やはりこれとこの広場、ちゃんとしているでしょう。こういうことが、今日持ってきて、要はこの辺りにずらせれば、ロータリーをこっちに、前に持ってくれば、後ろが俄然良くなります。平面駐車場はとりあえず良いと思う。どうしようもなければ、それを軽い鉄骨で少しやって2階にする。これぐらいのところに、こっちを平面駐車場に置いておいて。

【内藤委員】 荒木先生が絶対だめだとおっしゃったので、一応反論しておきます。

【伊藤会長】 内藤先生は一番1階が大事だと言っている先生ですから。

【内藤委員】 昔の駐車場というのは排気ガスの臭いとかいろいろありましたが、最近の車はわりとおとなしく、電気自動車も増えてきている。そうすると、次の時代の人と車と緑とが新しいマッチングするグランドフロアというのをつくれたら、全体が公園で、その中に車がどこまで止められるかという考え方は新しいのではないかと思います。東京では絶対できない。

【石原委員】 森の中に駐車場がわーっとあるみたいなの。

【川勝知事】 森の中の駐車場、つい1カ月前にできたんです。こちらの静岡銀行になります。静岡銀行は、駐車場じゃないのです。森の中に。人工的な森です。

【伊藤会長】 それで知事、やはりこれは東静岡って交通の便が悪いんです。だから、悪いところまで来る魅力を持たすには、そこに来るのは若い子を使うしかしようがないです。だから、私は、荒木先生が頑張って200人留学生を入れると、日本人100人で合計300人、それぐらいとにかく強制的に、外国人の若い子と日本人の若い子を集めれば、何か動きます。

【川勝知事】 わかりました。それでは、そういう考えで。

【伊藤会長】 それを考えてください。それがなくて、品の良いおじさま、おばさまなんていったら、何にも動きやしません。私はそれが鍵だと思う。

それと、企業研修とか、沢山あるでしょう。そういう人々は全部東静岡へ来て研修するんだとか。

【荒木委員】 もう1つ、グランシップの船首の方まで人と意識が来ていないのです。

そこは操舵室なんです。操舵室の前の景観があまり良くありません。上を見るときれいですが。そのグランシップの前の空間、これは今駐車場で使われると。そこは県有地ですか。

【川勝知事】      そこは市有地です。

【伊藤会長】      土地が沢山ありますね。そっちが調整池。

【荒木委員】      調整池ですね、確かに。もう少し工夫しないと。

【伊藤会長】      知事、面倒なので、そこ私に任せてください。だけど、結論は、今日、やはり若い外国の若者と日本の若者を強制的にここで混ぜ合わせれば何か出てきます。それでイニシアチブを荒木先生がつくったということは一番です。

それと、伊東学長がおっしゃった、「静岡学」というのは継続性があれば続きます。それがここで行われるということになれば、それはマグネットになります。

それであれば、デザイン的なのは寒竹先生、内藤先生がいらっしゃる。それから、今日重要だったのは、酒井委員のバスの話だったんです。あれはおもしろいから、もしかすると、本邦初演のものを、酒井委員がするかもしれない。やはり大学とか企業から東静岡に行くのは、マイクロバスか何か来なければできないでしょう、ここへ。来やすいようにして、これがちゃんとステーションできると。だから、個人の車も良いけど、やっぱりマイクロバスクラスを沢山ここに集めないといけない。そういうチャンスが多いというような場所にすれば、自ずから企業の人たちも使いやすくなると思うのです。

【川勝知事】      全体を考えます。それで若い青年たちも集まる。

【伊藤会長】      強制的にここへ集めればいいのです。そうでないと散ってしまいますから。だから、一言で言えば、寄宿舍です。

【川勝知事】      今、1985年ぐらいの段階、30年前ですけども、留学生が20万超えました。日本人が外国に行くのは6万人ぐらいです。2001年ぐらいに逆転している。本当に毎年5,000人ぐらい増えているのです。ですから、先生おっしゃるように、ミックスさせるぐらいにして、実は需要があるんです。我々気がついていなかったですが。

【伊藤会長】      それをやれば、絶対おもしろい。ハラールいきましょうよ。

【川勝知事】      ハラールもすごい大事な話です。

【伊藤会長】      静岡はハラールだと。

【川勝知事】      食材がたくさんありますので。

【伊藤会長】      そう、食材です。

【川勝知事】 ハラールできると。

【伊藤会長】 ハラールと、紅茶を駆逐するぐらいお茶の文化がここで頑張れば良いのですよ。結果として緑茶が勝ってしまうとかです。

【内藤委員】 伊藤先生に任せたら良い。

【伊藤会長】 まずいことを言ってしまったな。

はい、どうも今日はありがとうございました。ちょうど4時です。今日、かなり核心をついた御意見が出ましたので、あとは事務方の能力です。どれだけ8月の5回目の会議に向け、よくぞ事務方、私たちの意見をまとめたということが分かるような報告書を是非つくっていただきたい。

繰り返しますが、伊東学長の言われた静岡学というのは継続性がありますから、ぜひインスパイアするような形で、若者とくっつけてください。

それでは、これでよろしゅうございますか。では、知事、一言お願いします。

【川勝知事】 一言お礼の挨拶を申し上げます。実は、「静岡学」というか、ふるさと学といいたいまいしょうか、これは今から30年以上前に、石川県で、日本にいる留学生を1週間ないし10日ぐらい集中的にお集めになって授業をすると。地球環境だとか国際政治とかをやっていたのです。10年ぐらいたってしまいました。そんなことはどこでもやっているのです。

あるとき、ある方が、そんなところでやっていると、石川県でやるんだったら、石川は加賀百万石があるではないかと。あるいは西田幾多郎が出たではないかと。あるいは、加賀友禅があるではないか、お菓子があるではないかと。それから、宝生流があるではないか等々で、ふるさと学をそれぞれのやっているお菓子の職人さんだとか友禅をやっている人だとか、それから西田幾多郎の哲学であるとか、あるいはお城だとか。そうしたら、それがもう一生の思い出になって、今、OB会もできているぐらいです。

そういう言葉は、「薩摩学」だとか「京都学」だとか出ていますでしょう。ですから、それは、通常の一般的な学問を拒否するものではありませんけれども、ここでしかできないものをあわせて考えていく時代になっているというように思っております。

それを担うのはやはり若者なので、その若者も、今、1週間で日本の国籍を忘れて個人としてつき合うような、そういう空間が実は大学であります。あるいは、学びの良さです。ですから、そういう空間をここにどういうようにつくるかということで、とりあえず今日は具体的な絵を、モデルを寒竹、内藤両先生につくっていただきまして、またソフトの話

については荒木先生から出していただいて、そして一気に天才的な伊藤滋先生に、ハラー、どこまで行けるということで、ここはそういう若者を強制的に、若者がそこにがっとなるような、そうしたものをやってみよう。そして、自分がしっかり見るから、とりあえず信頼して出してこいと。

これで一応は4回終わりました、次回が5回目と、最終回になりますけれども、今日、本当に核心をつく意見も各先生からもおっしゃっていただきましたので、これをもう1度我々、まとめられるかどうか分かりませんが、それを全部入れ込んだものを、個別にそれまでに各先生にいろいろ御相談申し上げるかもしれませんが、それをまとめて、最終回、第5回の会合にしたいと思いますので、何とぞよろしく願いいたします。

本日は誠に長時間にわたりましてありがとうございました。

【伊藤会長】      ありがとうございました。

【政策企画部長】      本日はどうもありがとうございました。事務局の方が伺いました御意見を十分反映させていただきまして、第5回の専門会議、今予定では8月を予定してございますので、それまでにまとめ上げて、また皆様方にいろいろな御意見をいただきたいと思っております。

本日は誠にありがとうございました。

— 了 —